

いづみじいの森から

第 254 号
令和 7 年 12 月 5 日
里山を育てる会



紅葉の名残と落葉の始まりで、林外と林内の景色は変わりました。



11月の作業から

モウソウチク林の本数調整

モウソウチク林内の本数調整の伐採を、月をまたいで行いました。伐採した4～5年生のタケは、キンランの株数調査のための竹串として活用します。



シイタケ原木の伐採

シイタケ栽培を持続的に

行うために、今年もクヌギの伐採を東側のクヌギ植栽地で行いました。伐採したクヌギは来春に玉切りを行い、植菌の予定です。去年伐採をしたクヌギは、萌芽枝が写真左下のように1年で2メートル以上に伸びており、このまま順調に育てば、5年以内には利用可能な太さになります。

キンランの増加を目指し林床整理

今年もキンランの発生環境を整えるため、西側斜面を中心に林床整理を行います。ブナ科以外の低木やササの刈り払いと、落ち葉搔きを行います。



12月の予定

主たる作業

- ・林床整理
- ・シイタケ原木の伐採と萌芽枝の整理

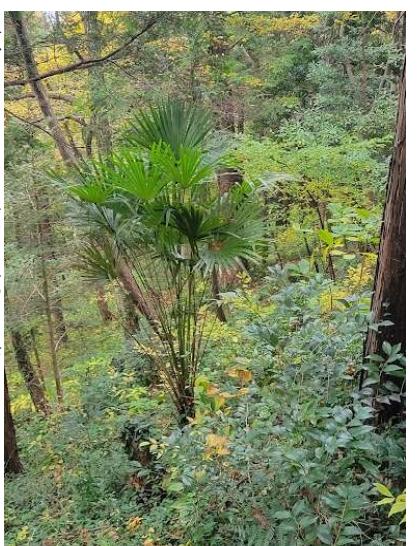
田和山の樹木 第66回 シュロ

シュロは、国内に自生する唯一のヤシ科の樹木です。田和山にも数本のシュロがあり、高さ5メートルに達するものや、写真の様に1メートルにもならないものもあります。高い方は、畠の跡に人の手によって植栽され、尾根付近に自生するのは鳥によって種が運ばれたものと推定されます。

ヤシ科の中では、比較的に寒さに強く東北地方南部までに分布を拡げています。

幹は分岐せず真っすぐに伸びる円柱で、枝はありません。幹の頂部に生じる葉は扇状で、何枚もの細長い小葉が集まってできています。葉柄は丈夫で持ちやすく、棕櫚箒やハエ叩きとしても使えます。葉柄の基部にあるシュロ皮は水に強く腐りにくくまた水捌けも良いために、シュロ繩(園芸用には欠かせない)、たわしやマット等として用いられています。このような実用性のため、かつては大切に育てられていました。

変わったところで材は、撞木として使われています。



今後の活動予定 12月5日(金)、12月12日(金)、12月20日(土)が年内最終です。令和8年1月9日(金)作業後に新年会、1月17日(土)、1月23日(金)、1月30日(金)。時間は13:30から、ただし土曜日は9:00からとなります。